

52年ぶりの再会

赤尾晴夫（9組）

「仙台真田を巡る旅」（蕨の会）の企画が具体化する中で、幹事の宮原豊君（9組）から、東北大学医学部に行った前山俊秀君（9組）に仙台で会うことが出来たら良いね、という話がありました。幸いなことに、東北大学出身の浅倉英樹君（4組）が前山君の現在の勤務先を知っておりそのお陰で彼とコンタクトすることが出来ました。

前山君との電話での会話の中で「お互い50数年経っているから誰が誰だかすぐ分かるだろうか」と不安な中での出会いでした。

4月9日、午後3時頃から始まった仙台駅西口の居酒屋での恒例の「打ち上げ会」も佳境に入った頃、かなり恰幅の良くなった前山君はその会場に現れました。お互い顔を見合わせ、「前山君？」「赤尾か？」のたった二言のやり取りで、52年間の時間が無かったかのように、気持ちはすぐに高校時代に戻ることが出来ました。

前山君の登場により、お互いが自己紹介するなど、打ち上げ会も何時もとはちょっと違う雰囲気で大いに盛り上がりました。お互いの会話の中から、前山君は大学卒業後、ずっと宮城県の病院で勤務医をされ、一時お父上のご病気の関係で長野県に帰ったが、再度宮城県に戻り、現在は透析専門病院の院長をして、大変忙しくされている、ということが分かりました。

今回の旅には9組から塚田道明君も参加していたので、打ち上げ会終了後、9組のメンバー4人で仙台駅の地下街で2次会を開催しました。しかし、私は前山君に会えた喜び、嬉しさから打ち上げ会でも沢山飲んでしまったため、2次会ではついうとうととしてしまい、高校時代の友達の話で盛り上がっていたなということ以外の記憶がありません。ただ、偶然にも前山君の奥様と私の妻が同じ秋田県出身ということが分かり不可思議な縁を感じた次第です。

前山君からは「皆様にお会いできて良かったです。9組のメンバーは何となく昔の面影が残っていて直ぐに誰か分かりほっとしました。もう少し時間があれば地元仙台の安くて美味しい店にご案内したかったのですが残念です。またお会いしましょう。」とのメールを頂きました。今回の旅のお陰で52年振りに前山君に再会できましたが、「年齢からくる肉体的なこと以外は何も変わっていません。会えて良かったです。」というのが率直な感想です。 以上



サプライズ参加してくれた前山君



9組4人で2次会